

女性と男性の恋愛観・結婚観に関する意識比較（第2報）

—男性の恋愛観・結婚観とジェンダー意識との関係—

三 木 幹 子*

(2014年11月12日 受理)

Comparison of Attitudes toward Perceptions of Love and Marriage between Men and Women (Part. 2)

— Relationships between Views of Love and Marriage
and Gender Awareness of Men —

Motoko MIKI*

A survey was conducted on the relationships between views of love and marriage and gender awareness of males targeting the males from teens through to thirties.

From the consideration on the relationships between views of love and marriage and gender awareness, the findings were as follows.

・ A factor analysis was conducted on the gender awareness of males and two factors were extracted: “factor of dependence on love” and “factor of stereotype on femininity”.

・ Males with strong gender awareness have a tendency to be positive on love and desire to build a happy home.

・ Males with strong gender awareness have a tendency to desire faith of females and compromise with their beauty.

・ Males with less gender awareness have a tendency to consider that it will be difficult to continue a marriage life and desire an easy love relationship.

・ Males with less awareness of love and marriage have less awareness of females as well.

・ Males who demand females to be feminine have a strong desire of love and are romanticists believing in a predestined encounter.

Keywords: Factor Analysis 因子分析, Perceptions of Love and Marriage 恋愛観・結婚観, Gender ジェンダー

1. はじめに

平成26年8月に内閣府¹⁾が調査した「女性の活躍推進に関する世論調査」によると、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に賛成する人が44.6%、反対が49.4%という結果となった。前回（平成24年10月）の調査結果と比べると、「賛成」が低下し、「反対」が上昇している。性別では、女性の方が「反対」の割合が高く、年齢別では20歳代の割合が高かった。過去の調査結果よりも「反対」の割合が高くなったとはいえ、家庭内

での男女の性役割に対して、保守的な考えを持つ若者が未だに4割以上も存在するという結果に驚く。また、女性が職業をもつことについて、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と回答した割合は、男性（43.5%）よりも女性（45.8%）が高かった。

さらに、世界経済フォーラム（WEF）の2014年版「ジェンダー・ギャップ指数」によると、日本の男女平等指数は世界142カ国中、104位であった²⁾。

このように、日本人は先進国の中でも保守的なジェンダー意識を持っており、根本的に日本人の意識を改革しなければ、現在政府が推進する少子化対策の効果は望めないだろう。

* 広島女学院大学人間生活学部生活デザイン・建築学科教授

著者等は、女子高校生と女子大学生を対象に結婚・恋愛に関する意識調査およびジェンダー意識に関するアンケート調査を行い、両者の恋愛観と結婚観の違い、およびジェンダー意識が恋愛観に与える影響について考察を行った³⁾。また、前報⁴⁾においては、中学生、高校生、大学生、社会人、主婦の様々な世代の男女を対象に、恋愛と結婚に関する意識調査を行い、性別や年代による恋愛観と結婚観の比較を行った。

そこで本研究では、10代から30代の男性を対象に、男性の恋愛観・結婚観と、彼らが持つジェンダー意識との関係について考察を行う。

2. 調査方法

- (1) 調査時期 2009年11月, 2010年11月
- (2) 調査対象 被験者は10後半代から30代の男性509名, 有効回答数484名である。男性被験者の年齢・職業の内訳を表1に示す。

表1 被験者の内訳

カテゴリー	(人)
高校生	11
大学生	324
社会人 (10代~20代前半)	86
社会人 (20代後半)	35
社会人 (30代以上)	28
計	484

- (3) 調査内容 質問紙法によるアンケート調査を実施した。

1) ジェンダー意識調査

男性が日常生活における仕事・結婚・家庭への意識、男女平等、性役割、ジェンダーを意識する行動に関する質問を20項目設定した。評価にはSD法を用い、各項目について「そう思う」「ややそう思う」「どちらでもない」「あまり思わない」「全く思わない」の5段階で回答してもらった(評価に用いた質問項目は図1参照)。

2) 恋愛と結婚に対する意識調査

日頃抱いている恋愛と結婚に関する理想、願望、価値観等に関する意識質問を20項目設定した。評価にはSD法を用い、各項目について「そう思う」「ややそう思う」「どちらでもない」「あまり思わない」「全く思わない」の5段階で回答してもらった(評価に用いた質問項目は表4参照)。

3. 結果・考察

(1) ジェンダー意識調査

1) 官能評価プロフィール

男性被験者を、高校生、大学生、社会人(10代~20代前半)、社会人(20代後半)、社会人(30代以上)の5カテゴリーに分け、評価平均を算出し、図1の官能評価プロフィールに示す。

全体的な傾向として、「結婚したら男性が家族を養う義務がある」「涙は女の武器だと思う」「好意を持っている異性の前では態度が変わる」「プロポーズは男性からするべきだ」などの項目において評価が高く、女性に対して自分の男らしさを表現したいという意識が強い。また、「今の日本は男女平等だ」「しよせん、女は男には適わないと思う」「男は「愛してる」「きれいだね」等と口に出すべきではない」などの項目において評価が低く、女性の能力や立場を肯定する傾向が見られる。各カテゴリーの評価を比較すると、社会人(30代以上)の男性は他のカテゴリーよりも、「出産祝いを買うとしたら、女の子には赤、男の子には青の品物を選ぶ」「男は男らしく」「女は女らしく」という主義だ」の評価が高く、「女性の化粧は詐欺だと思う」は評価が低い。年齢が高い男性は、従来の社会で常識とされていたジェンダー観を強く持っているようだ。

2) 単相関係数

男性のジェンダー意識調査に用いた20個の質問項目間における単相関係数を表2に示す。検定の結果、相関が有意であった組合せに** ($p < 1\%$) または* ($p < 5\%$) を記している。

「男は男らしく」「女は女らしく」という主義だ」と他の項目との相関に注目すると、「結婚したら男性が家族を養う義務がある」「男なら電気配線等が得意じゃないと恥ずかしい」「女性なら料理や家事はできないといけなと思う」「化粧は大人の女性のたしなみである」「女性が男言葉を使うのは嫌いだ」「プロポーズは男性からするべきだ」等との間に有意な相関がみられた。ジェンダー意識が強い男性は、男性と女性の性役割を強く認識しており、男としての義務や使命感を自覚しているようだ。また、「異性には(勉強や仕事で)で負けたくない」「しよせん、女は男には敵わないと思う」との間に相関が見られたことから、女性に対する対抗心も強いことがわかる。

「今の日本社会は男女平等だ」と他の項目との相関に注目すると、「結婚したら男性が家族を養う義務がある」「プロポーズは男性からするべきだ」等との間に有意な相関がみられた。男女平等意識が強い男性であっても、家庭や結婚に関しては男性としての義務を意識しているよ

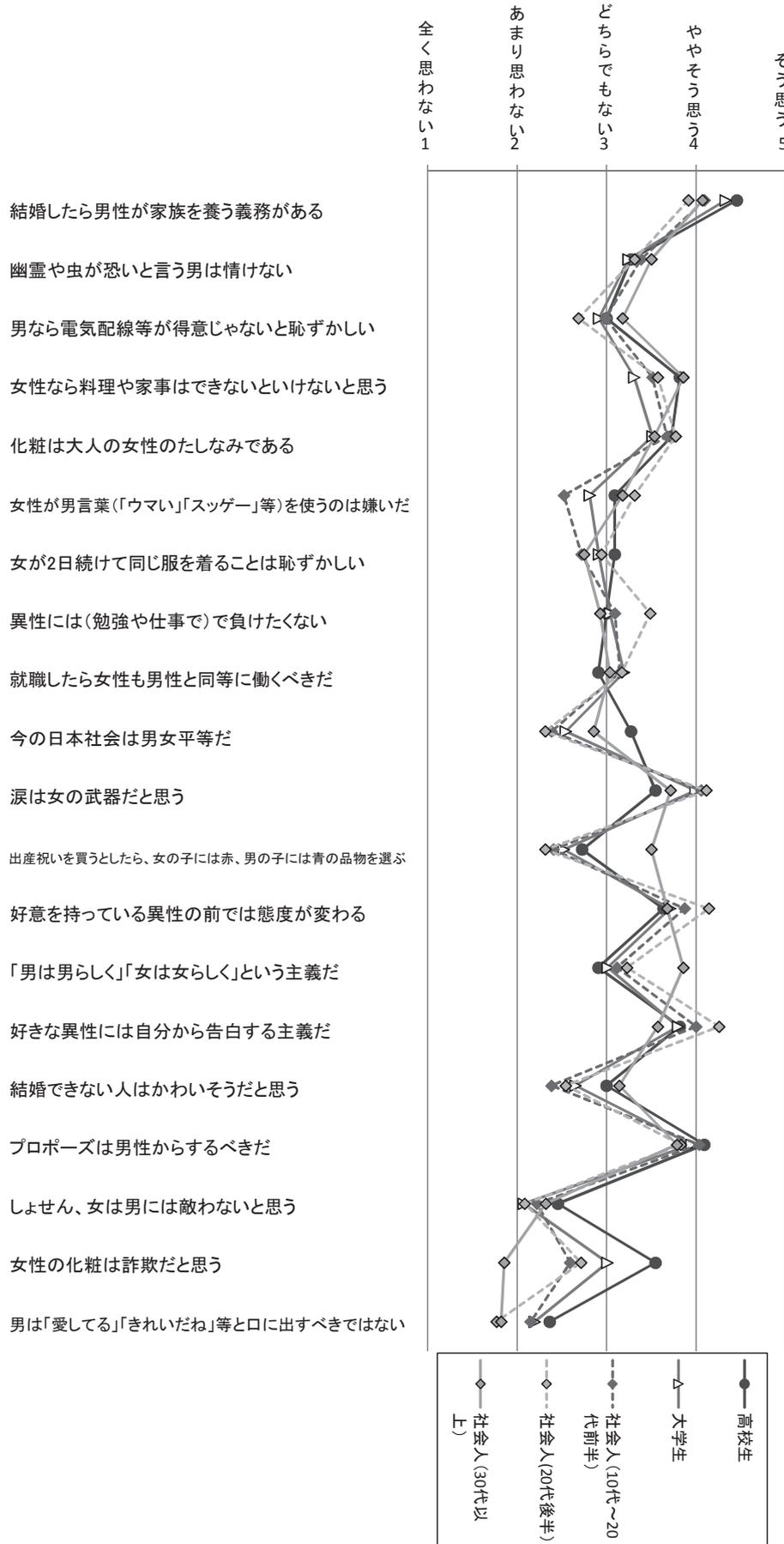


図1 官能評価プロフィール「ジェンダー意識」世代別カテゴリー比較

うである。また、「女性が男言葉を使うのは嫌いだ」との間にはマイナス値で有意な相関が認められたことから、女性の男性化について容認していることがわかる。

3) 因子分析

男性のジェンダー意識についての基本因子を抽出するために、20個の質問項目を変数に、被験者484名の全評価を観測回数として因子分析を行った。評価値は「全く思わない」から「そう思う」までを1～5点とした。因子分析には主因子法を用い、バリマックス回転法により、軸回転後の因子負荷量および各被験者の因子得点を求めた。

因子分析を行った結果、表3に示すような固有値1.0以上の2因子が抽出された。因子負荷量より各因子の意味を検討した結果、第1因子は、「男は男らしく」「女は女らしく」という主義だ」「結婚したら男性が家族を養う義務がある」「女性が男言葉（「ウマイ」「スゲー」等）を使うのは嫌いだ」「女性なら料理や家事はできないといけないと思う」等の因子負荷量が高い値を示していることから、「保守的ジェンダー観の因子」と解釈した。

第2因子は、「しよせん、女は男には敵わないと思う」「涙は女の武器だと思う」「女が2日続けて同じ服を着ることは恥ずかしい」「化粧は大人の女性のたしなみである」等の因子負荷量が高い値を示していることから、「女性らしさの固定観念の因子」と解釈した。

4) 因子得点の分布

男性のジェンダー意識の各因子について因子得点を算出し、全被験者の因子得点を分布させたグラフを図2に示す。よこ軸が第1因子“保守的ジェンダー観の因子”，たて軸が第2因子“女性らしさの固定観念の因子”を示している。また、男性被験者を、高校生、大学生、社会人（10代～20代前半）、社会人（20代後半）、社会人（30代以上）の5つのカテゴリーに分類し、記号を変えて表示している。

各因子のプラスとマイナスの組合せにより、被験者をa, b, c, dの4領域に分類することができる。

社会人（30代以上）の被験者は、第1因子、第2因子ともにプラスの領域（a領域）に多く分布している。すなわち、性役割意識が強く、女性に「女らしさ」を求める男性が多いといえる。社会人（20代後半）の被験者は全体的に第1因子がプラス側に多く分布しており、ジェンダー意識が強い傾向が見られる。また、第1因子、第2因子ともにマイナスの領域（d領域）での分布も目立つことから、20代後半の男性の中には、性役割や女性らしさについて特別な意識をもたない層が存在するといえる。社会人（10代～20代前半）の被験者は、第2因子が

マイナス側に分布が多い。この領域には大学生の分布も多いことから、20歳前後の若い男性の場合、女性に特定のイメージ（固定観念）を要求しない場合が多いようだ。

（2）恋愛と結婚に対する意識調査

1) 因子分析

男性の恋愛と結婚に対する意識の基本因子をそれぞれ抽出するために、20個の質問項目を変数に、被験者484名の全評価を観測回数として因子分析を行った。評価値は「全く思わない」から「そう思う」までを1～5点とした。因子分析には主因子法を用い、バリマックス回転法により、軸回転後の因子負荷量および各被験者の因子得点を求めた。

因子分析を行った結果、表4に示すような4因子が抽出された。第3因子と第4因子は固有値が1.0に近い採用することとした。因子負荷量より各因子の意味を検討した結果、第1因子は、「彼女には思いっきり甘えたい」「恋人から数日間連絡がないと心配で眠れない」「友達との友情よりも恋人との恋愛が優先」「人前で恋人と平気でいちゃいちゃできる」等の因子負荷量が高い値を示していることから、「恋愛依存の因子」と解釈した。

第2因子は、「理想の恋人が現れると信じている」「運命の赤い糸を信じている」「むかしから自分の「未来予想図」を持っている」等の因子負荷量が高い値を示していることから、「運命論の因子」と解釈した。

第3因子は、「美人すぎる異性とは浮気が心配でつきあいたくない」「結婚する気のない異性とは本気でつきあえない」「男と女は結婚までの性的関係を持つべきではない」等の因子負荷量が高い値を示していることから、「保守的恋愛観の因子」と解釈した。

第4因子は、「一生、ひとりの異性だけを愛し続けることは難しいと思う」「結婚と恋愛は別だ」「経済力も男性の重要な魅力のひとつだと思う」等の因子負荷量が高い値を示していることから、「現実的結婚観の因子」と解釈した。

2) 因子得点の分布

男性の恋愛と結婚に対する意識の各因子について因子得点を算出し、全被験者の因子得点の位置関係を検討した。第1因子と第2因子の分布図を図3に、第3因子と第4因子の分布図を図4に示す。

図3は、よこ軸が第1因子“恋愛依存の因子”，たて軸が第2因子“運命論の因子”を示している。また、男性被験者を、高校生、大学生、社会人（10代～20代前半）、社会人（20代後半）、社会人（30代以上）の5つのカテゴリーに分類し、記号を変えて表示している。

各因子のプラスとマイナスの組合せにより、A, B,

表3 因子分析 (ジェンダー意識)

因子負荷量：回転後 (バリマックス法)

変数名	第1因子	第2因子
	保守的 ジェンダー観	女性らしさの 固定観念
「男は男らしく」「女は女らしく」という主義だ	0.5549	0.2738
幽霊や虫が怖いと言う男は情けない	0.5031	-0.0249
男なら電気配線等が得意じゃないと恥ずかしい	0.4677	0.0927
プロポーズは男性からするべきだ	0.4152	0.1941
結婚したら男性が家族を養う義務がある	0.4055	-0.0411
異性には (勉強や仕事で) で負けたくない	0.3599	0.2830
女性が男言葉 (「ウマイ」「スグゲー」等) を使うのは嫌いだ	0.3220	0.1657
出産祝いを買うとしたら、女の子には赤、男の子には青の品物を選ぶ	0.2600	0.0937
女性なら料理や家事はできないといけないと思う	0.3567	0.3564
しよせん、女は男には敵わないと思う	0.1827	0.4739
女性の化粧は詐欺だと思う	-0.1077	0.4063
結婚できない人はかわいそうだと思う	0.2867	0.4044
涙は女の武器だと思う	0.0328	0.3558
女が2日続けて同じ服を着ることは恥ずかしい	0.2524	0.3082
化粧は大人の女性のたしなみである	0.1753	0.2922
就職したら女性も男性と同等に働くべきだ	0.0242	0.0190
今の日本社会は男女平等だ	0.0960	0.0105
好意を持っている異性の前では態度が変わる	0.0368	0.2243
好きな異性には自分から告白する主義だ	0.1467	-0.1704
男は「愛してる」「きれいだね」等と口に出すべきではない	0.2314	0.0198
固有値	1.8537	1.3073
寄与率 (%)	9.27	6.54
累積寄与率 (%)	9.27	15.80

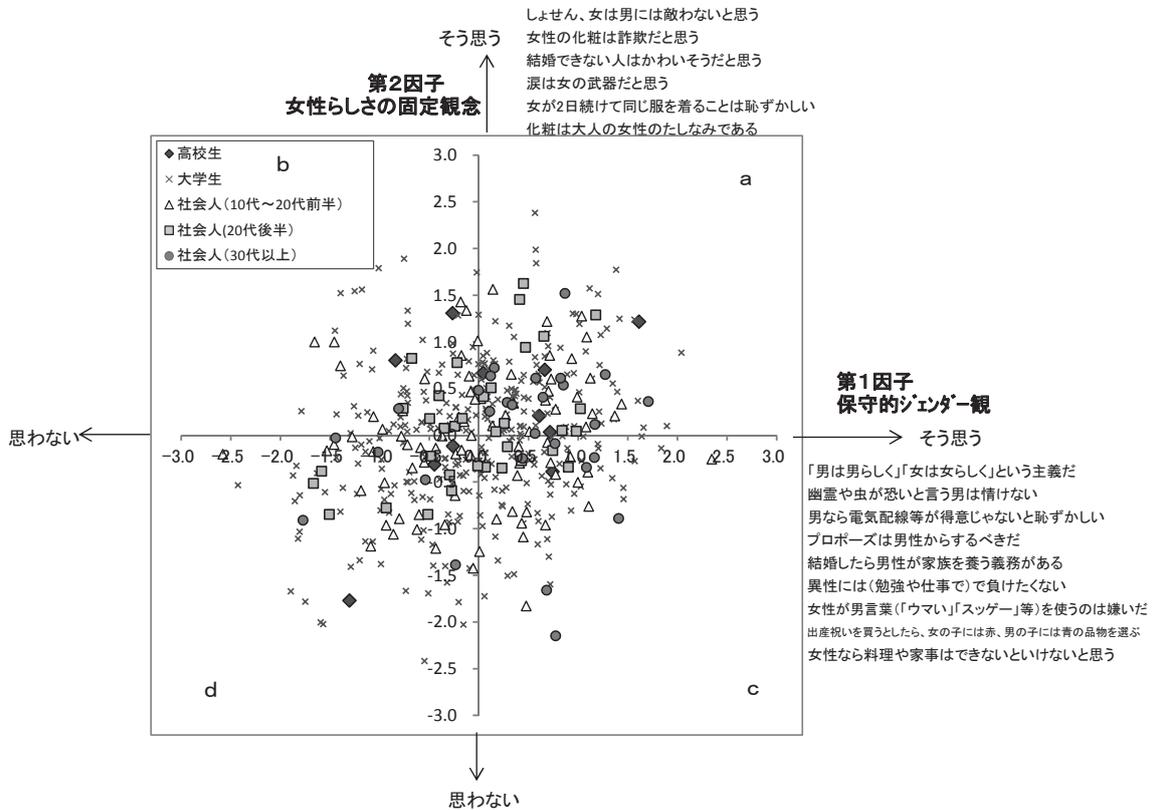


図2 因子得点の分布図「ジェンダー意識」
世代別カテゴリー比較 (第1因子と第2因子)

表4 因子分析（恋愛と結婚の意識）

因子負荷量：回転後（バリマックス法）

変数名	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
	恋愛依存	運命論	保守的 恋愛観	現実的 結婚観
彼女 or 彼氏には思いっきり甘えたい	0.5229	0.1355	0.0120	0.0963
恋人から数日間連絡がないと心配で眠れない	0.5183	0.0811	0.1602	-0.0479
友達との友情よりも恋人との恋愛が優先	0.4676	0.0911	0.0128	-0.1251
人前で恋人と平気でいちゃいちゃできる	0.4268	0.0017	0.0030	0.0199
最大の幸せは「結婚」だ	0.3793	0.3569	0.2661	-0.1491
理想の恋人（白馬に乗った王子様 or お姫様）が現れると信じている	-0.0047	0.6063	0.0349	-0.0092
運命の赤い糸を信じている	0.1086	0.5923	0.1457	0.0023
むかしから自分の「未来予想図」を持っている	0.3039	0.4111	0.1099	-0.0250
結婚したら相手に生涯愛される自信がある	0.3074	0.3365	-0.0504	-0.1018
美人 or かっこよすぎる異性とは浮気が心配でつきあいたくない	0.0838	0.0184	0.5246	-0.0624
結婚する気のない異性とは本気でつきあえない	0.1962	0.1194	0.4621	-0.1357
恋人が一度でも浮気をしたら絶対別れる	0.0316	-0.0224	0.3727	-0.0046
男と女は結婚までの性的関係を持つべきではない	-0.0916	0.1109	0.3669	-0.1186
一生、ひとりの異性だけを愛し続けることは難しいと思う	-0.0837	-0.1954	-0.0289	0.4920
結婚と恋愛は別だ	-0.1444	-0.0312	-0.1688	0.4431
経済力も男性の重要な魅力のひとつだと思う	0.1086	0.1578	-0.1005	0.4060
条件がよければお見合い結婚でもよい	0.0156	0.0172	-0.0168	0.2197
愛があれば貧乏生活も耐えられる	0.2183	0.1624	0.0021	-0.3032
自分は理想が高いと思う	0.0854	0.2321	-0.1081	0.2333
恋人から高価なプレゼントをされると愛情が増す	0.2715	0.2485	0.1593	0.2018
固有値	1.5088	1.3950	0.9729	0.9360
寄与率（%）	7.54	6.97	4.86	4.68
累積寄与率（%）	7.54	14.52	19.38	24.06

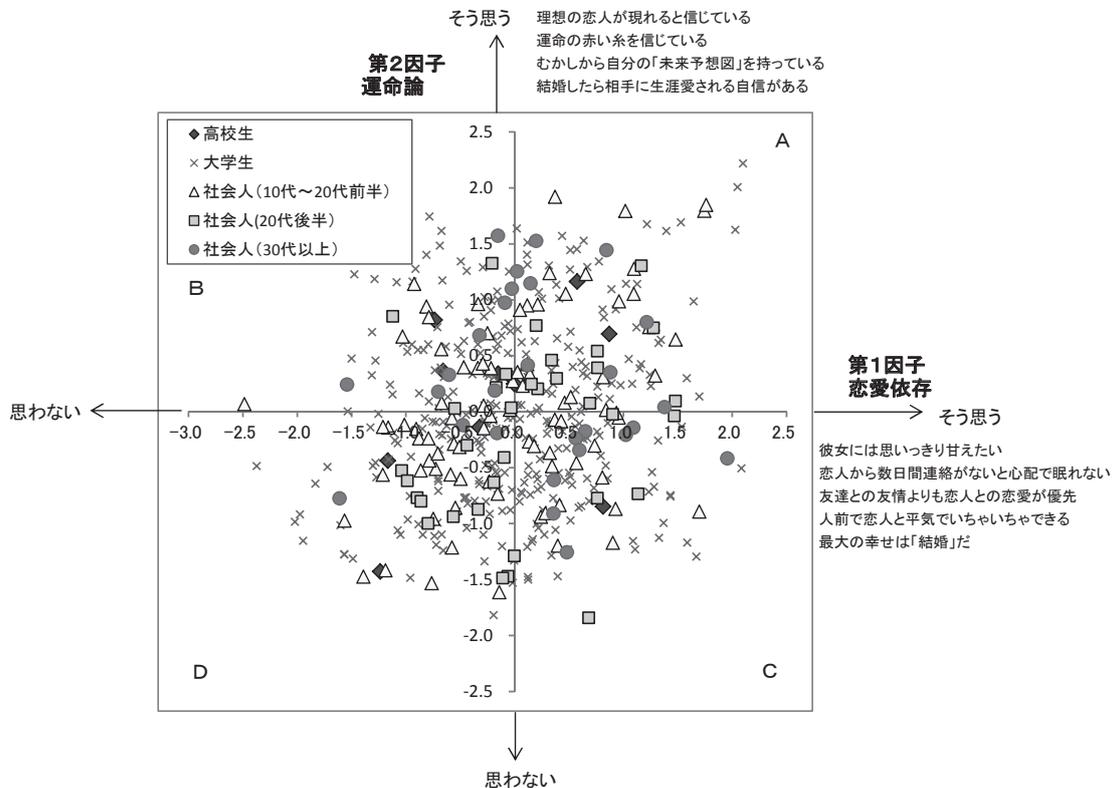


図3 因子得点の分布図「恋愛と結婚の意識」
世代別カテゴリー比較（第1因子と第2因子）

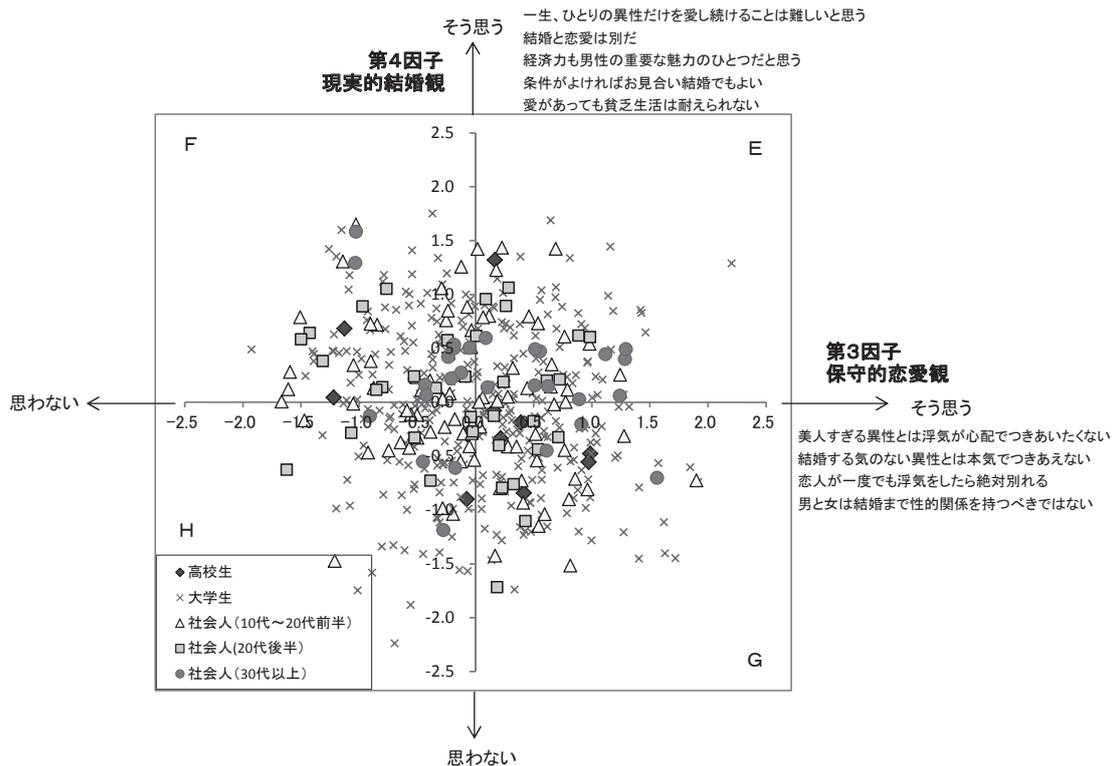


図4 因子得点の分布図「恋愛と結婚の意識」
世代別カテゴリー比較（第3因子と第4因子）

C, Dの4領域に分類することができる。

A領域（第1因子，第2因子共にプラス）に分布している被験者は，恋愛に依存する傾向が強く，運命の出会いを信じており，恋愛・結婚に関心が強く，積極的な男性であるといえる。このエリアでは10代～20代前半の若い年齢層の分布が多い。

B領域（第1因子マイナス，第2因子プラス）に分布している被験者は，結婚願望は強いが，恋愛には消極的な男性である。この領域では社会人（30代以上）の分布が多く，社会人（20代後半）の分布が少ない。

C領域（第1因子プラス，第2因子マイナス）に分布している被験者は，恋愛には積極的であるが結婚願望が低い男性である。この領域には社会人（30代以上）が多く分布している。運命の出会いを信じておらず現実的であるといえる。

D領域（第1因子，第2因子共にマイナス）に分布している被験者は，恋愛に消極的で，かつ結婚願望も低い男性である。ここには，10代～20代前半と20代後半の社会人が多く分布している。いわゆる「草食系男子」と呼ばれる女性との交際に関心が低い，若い男性層であると思われる。

図4は，よこ軸が第3因子“保守的恋愛観の因子”，たて軸が第4因子“現実的結婚観の因子”を示している。

各因子のプラスとマイナスの組合せにより，被験者をE, F, G, Hの4領域に分類することができる。

E領域（第3因子，第4因子共にプラス）に分布している被験者は，恋愛には保守的で，結婚に対しては現実的なイメージを持っているといえる。

F領域（第3因子マイナス，第4因子プラス）に分布している被験者は，自由な恋愛観を持っているが，結婚に対しては現実的に考えているといえる。

G領域（第3因子プラス，第4因子マイナス）に分布している被験者は，保守的な恋愛観を持っており，理想的な結婚増を抱いているといえる。

H領域（第3因子，第4因子共にマイナス）に分布している被験者は，結婚に理想を抱いており，また恋愛に対しては進歩的な考えを持っている。

（3）被験者のジェンダー意識の違いによる，恋愛観・結婚観の比較

男性のジェンダー意識の違いが，恋愛観・結婚観にどのような影響を与えるのかについて検討するため，ジェンダー意識の分析結果を，恋愛と結婚に対する意識の因子得点分布に反映させ，両者の関係を考察する。

ジェンダー意識の因子分析結果から，各因子の因子得点の標準偏差（ σ ）を算出した（各因子の標準偏差：第1因子0.8203，第2因子0.7619である）。

次に、被験者のジェンダー意識の因子得点を、平均値 $+\sigma$ 以上の被験者（ $+\sigma$ ）、平均値 $+2\times\sigma$ 以上の被験者（ $+2\sigma$ ）、平均値 $-\sigma$ 以下の被験者（ $-\sigma$ ）、平均値 $-2\times\sigma$ 以下の被験者（ -2σ ）の計4グループに分け、恋愛と結婚の意識の因子得点分布図上に記号を変えて表示した。

図5は恋愛と結婚の意識の第1因子“恋愛依存の因子”と第2因子“運命論の因子”の因子得点分布図である。ジェンダー意識の第1因子“保守的ジェンダー観の因子”の因子得点がプラスの被験者（ $+\sigma$ 、 $+2\sigma$ ）とマイナスの被験者（ $-\sigma$ 、 -2σ ）に分けて示している。

ジェンダー意識プラスの被験者（ $+\sigma$ 、 $+2\sigma$ ）は、第1因子と第2因子共にプラスの領域に多く分布している。すなわち、「男は男らしく、女は女らしく」といった典型的なジェンダー意識が強い男性は、恋愛に積極的であり、また幸せな家庭を持つことを夢見ているということである。

反対に、ジェンダー意識がマイナスの被験者（ $-\sigma$ 、 -2σ ）は、第1因子、第2因子共にマイナスの領域に多く分布している。すなわち、性役割意識の低い男性は、恋愛に消極的もしくは関心を持っておらず、また結婚願望が低く、結婚に理想を抱いていないといえる。

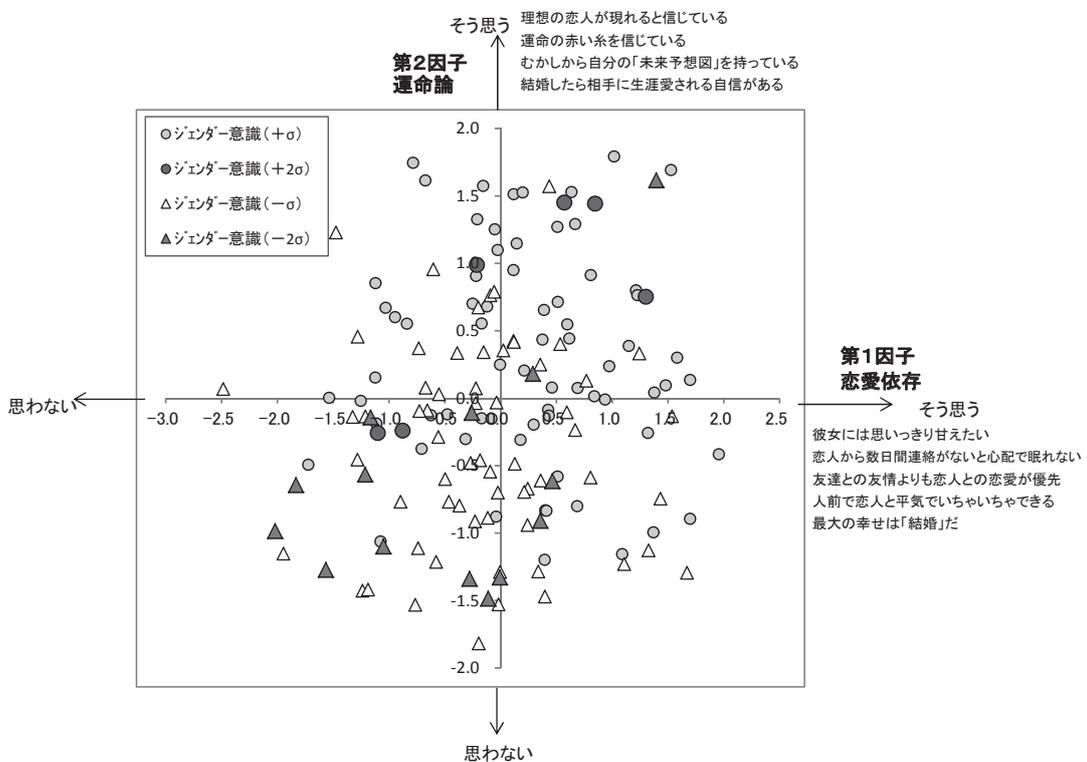
図6は恋愛と結婚の意識の第3因子“保守的恋愛観の

因子”と第4因子“現実的結婚観の因子”の因子得点分布図である。ジェンダー意識の第1因子“保守的ジェンダー観の因子”の因子得点がプラスの被験者とマイナスの被験者に分けて示している。

ジェンダー意識がプラスの被験者は、第3因子がプラス側に多く分布している。すなわち、ジェンダー意識が強い男性は、保守的な恋愛観を持っており、女性には誠実さと貞操観念を求めている。そのため相手（特に容姿）に妥協する傾向がある。また、これらの被験者中でも、第4因子もプラス側に分布が多く、結婚生活に必要な条件（特に経済力）を強く認識しているといえる。

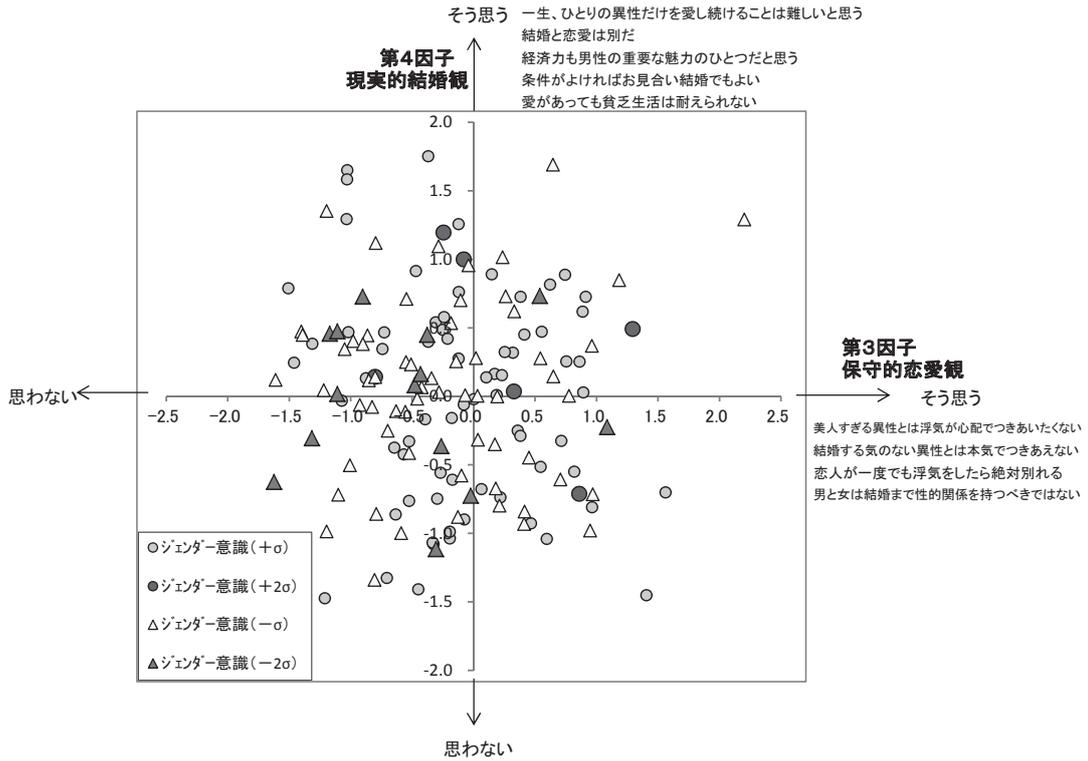
ジェンダー意識がマイナスの被験者は、第3因子がマイナス側に多く分布しており、進歩的で自由な恋愛を望んでいることがわかる。すなわち、結婚を前提としない恋愛関係を理想としており、また女性に誠実さや一途さを求めているわけでもない。さらに、第4因子はプラス側に多く分布していることから、ジェンダー意識が低い男性は、気軽な恋愛関係への志向が強く、結婚生活を継続することの困難さを自覚していると思われる。

図7は恋愛と結婚の意識の第1因子と第2因子の因子得点分布図に、ジェンダー意識の第2因子“女性らしさの固定観念の因子”の因子得点がプラスの被験者とマイ



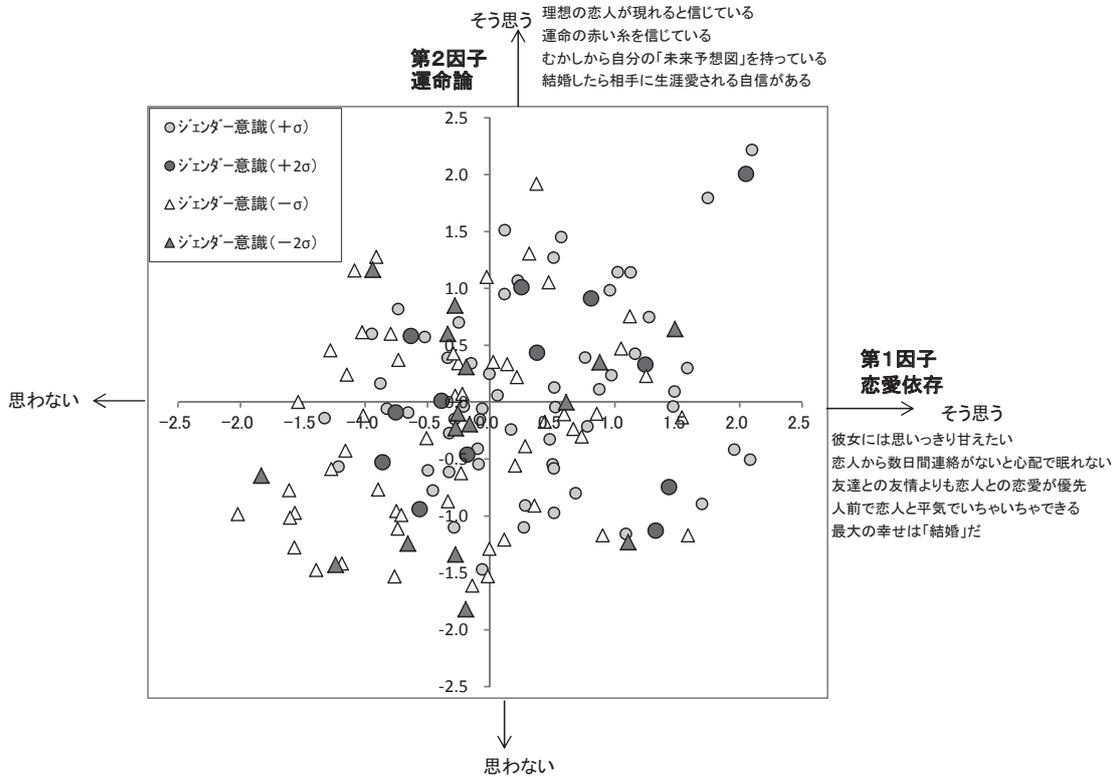
*「ジェンダー意識調査」の第1因子「保守的ジェンダー観」の因子得点が、プラスの被験者（ $+\sigma$ 、 $+2\sigma$ ）と、マイナスの被験者（ $-\sigma$ 、 -2σ ）に分けて分布させている。

図5 ジェンダー意識による、恋愛と結婚の意識比較（第1因子と第2因子）
—第1因子「保守的ジェンダー観」による分類—



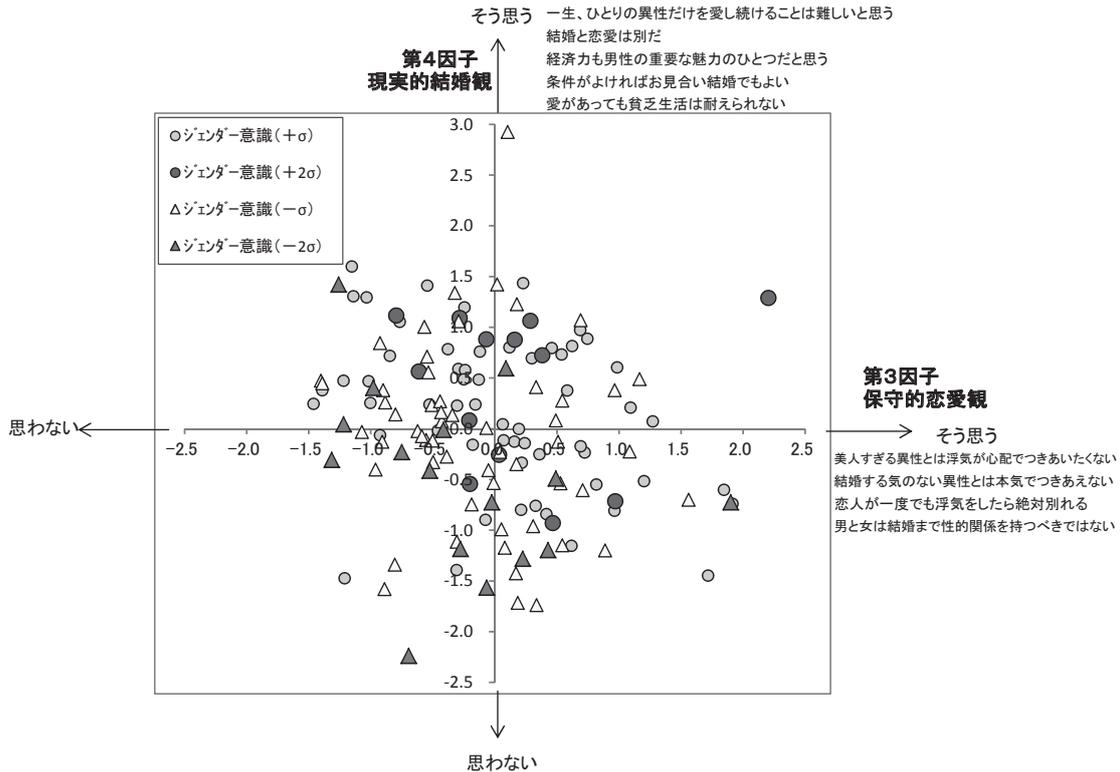
*「ジェンダー意識調査」の第1因子「保守的ジェンダー観」の因子得点が、プラスの被験者(+σ、+2σ)と、マイナスの被験者(-σ、-2σ)に分けて分布させている。

図6 ジェンダー意識による、恋愛と結婚の意識比較 (第3因子と第4因子)
—第1因子「保守的ジェンダー観」による分類—



*「ジェンダー意識調査」の第2因子「女性らしさの固定観念」の因子得点が、プラスの被験者(+σ、+2σ)と、マイナスの被験者(-σ、-2σ)に分けて分布させている。

図7 ジェンダー意識による、恋愛と結婚の意識比較 (第1因子と第2因子)
—第2因子「女性らしさの固定観念」による分類—



*「ジェンダー意識調査」の第2因子「女性らしさの固定観念」の因子得点が、プラスの被験者(+σ、+2σ)と、マイナスの被験者(-σ、-2σ)に分けて分布させている。

図8 ジェンダー意識による、恋愛と結婚の意識比較（第3因子と第4因子）
—第2因子「女性らしさの固定観念」による分類—

ナスの被験者を分布させている。

ジェンダー意識がプラスの被験者は、第1因子がプラス側に多く分布しており、また第2因子もプラスへの分布が目立つ。このことから、女性に女らしさを求める男性は、恋愛願望が強く、また運命の出会いを信じるといったロマンチストな一面を持っているといえる。

反対に、ジェンダー意識がマイナスの被験者は、第1因子、第2因子共にマイナスの領域に多く分布していることから、恋愛と結婚に関心が低い男性は、女性に対しての関心も低い傾向が見られた。

図8は恋愛と結婚の意識の第3因子と第4因子の因子得点分布図に、ジェンダー意識の第2因子“女性らしさの固定観念の因子”の因子得点がプラスの被験者とマイナスの被験者を分布させている。

ジェンダー意識がプラスの被験者は、第4因子がプラス側に多く分布している。すなわち、女性らしさの固定観念が強い男性は、結婚に経済力が必要だと認識しており、いわゆる「一家の主」としての責任感が強いといえる。また、第3因子、第4因子共にマイナスの領域にはほとんど分布していないことから、女性らしさを要求する男性は、結婚を意識しないで女性と気軽に交際しよう

とは思っておらず、ある意味責任感が強いといえる。

反対に、ジェンダー意識がマイナスの被験者（特に-2σ）は第4因子がマイナスの傾向が強いことから、女性らしさにこだわりを持っていないが、男性としての義務感や甲斐性に対しても自覚が低いことがわかる。

4. まとめ

男性を対象に恋愛と結婚に対する意識調査、およびジェンダー意識に関するアンケート調査を行い、因子分析により2つの意識の関係を考察した結果、以下のことが明らかになった。

- (1) 全体的に男性は、女性に対して自分の男らしさを表現したいという意識が強く、また女性の能力や立場を肯定する傾向がみられた。
- (2) 30代以上の社会人は、「男は男らしく、女は女らしく」といった、従来の社会で常識とされていた保守的なジェンダー観を強く持っている。
- (3) 単相関係数の結果から、ジェンダー意識が強い男性は、男性と女性の性役割を強く認識しており、男としての義務や使命感を自覚しており、また女性に対する対抗心も強い。

(4) 男女平等意識が強い男性であっても、家庭や結婚に関しては男性としての義務を意識しており、また女性の男性化について容認する傾向がみられた。

(5) 男性のジェンダー意識について因子分析を行った結果、“恋愛依存の因子”“女性らしさの固定観念の因子”の2因子が抽出された。

(6) ジェンダー意識の因子得点がプラスとマイナスの被験者に分け、恋愛と結婚に対する意識の比較を行った結果、ジェンダー意識が強い男性は、恋愛に積極的であり、また幸せな家庭に対する願望が強い傾向がみられた。

(7) ジェンダー意識が強い男性は、保守的な恋愛観を持っており、女性には誠実さと貞操観念を求めている。そのため相手の条件（容姿など）に妥協する傾向がある。

(8) ジェンダー意識が低い男性は、結婚生活を継続することを困難と捉えており、気軽な恋愛関係への志向が強い。

(9) 恋愛と結婚に関心が低い男性は、女性に対しての関心も低い。

(10) 女性に女らしさを要求する男性は、恋愛願望が強く、また運命の出会いを信じるといったロマンチストな一面を持っている。また気軽な恋愛を好んでおらず、ある意味責任感が強い。

最後に、アンケートにご協力いただいた皆様へお礼を申し上げます。

引用文献

- 1) 内閣府, 「女性の活躍推進に関する世論調査」 <http://survey.gov-online.go.jp/h26/h26-joseikatsuyaku/1.html> (2014年11月6日)
- 2) 日本経済新聞, 「男女平等指数, 日本は142カ国中104位」 http://www.nikkei.com/article/DGXLASDF27H0B_X21C14A0PP8000/ (2014年10月28日)
- 3) 三木幹子, 植木由香, 「女子大学生と女子高校生の恋愛観・結婚観とジェンダー意識との関係」, 広島女学院大学論集, 第60集, pp. 95-109, 2010
- 4) 三木幹子, 植木由香, 「女性と男性の恋愛観・結婚観に関する意識比較」, 広島女学院大学論集, 第61集, pp. 95-112, 2011
- 5) 三木幹子, 「女子大生のメンズファッションに対する意識と着用実態 (第1報) —パンツ・スタイル画像の視覚評価—」, 広島女学院大学論集, 第56集, pp. 97-108, 2006
- 6) 三木幹子, 「女子大生のメンズファッションに対する意識と着用実態 (第2報) —パンツ・スタイルのイメージとジェンダー意識の関係—」, 広島女学院大学生生活科学部紀要, 第14号, pp. 1-14, 2007
- 7) 山田昌弘, 白河桃子, 『「婚活」時代』, デイスクヴァー・トゥエンティワン, 2008年
- 8) 森岡正博, 『草食系男子の恋愛学』, メディアファクトリー, 2008年
- 9) 厚生労働省, <http://www.mhlw.go.jp/> (2014年10月25日)
- 10) 国立社会保障・人口問題研究所, <http://www.ipss.go.jp/> (2014年10月25日)